

2020年 9月 3号 関電疑惑を許さない！ いのちを護る教育を！ 平和憲法を護る！



9/9 長良小・工事現場視察 無所属クラブ

プール工事へつなぐ鉄筋がむき出し 悲しい

9月9日（水）午前、無所属クラブ（4人）は長良小学校のプール工事現場を視察。ここは、本年度当初予算で工事予算が可決され、小さな子ども達が新しいプールの完成を心待ちにしていたが、教育長は入札不調（5月11日）を理由に工事中断。

本年3月議会から市議会へは何ら説明も無いまま、4ヵ月放置される間に、「プール廃止」の住民説明会だけは、5日間（7月13、17、21、22日、8月21日）かけて教育長が根回しを強行。この間、議会には建設中止の説明無いまま、現在の9月議会へ予算削減議案が突然提出された。

現場は、新校舎のかわいいデザインとは裏腹に、既に完成した体育館から、本来ならプールに繋がるはずの鉄筋が448本もむき出しに。木杭とロープで囲われていた。視察では、教育委員会の建設担当者から入札不調からの経過、現状などの説明を受けた。説明する担当者的大汗は照りつける太陽の所為だけではないだろう。

合築の 市民協働推進部へ「プール建設中止通告」 6月議会中

この建築物はプールと長良公民館が合築される予定であり、教育委員会事務局の決定は市民協働推進部の事業に直接影響する。教育委員会事務局が市民協働推進部に「建設中止」を「通告」したのは、6月23日。これは、教育委員会の教育委員の会議が7月1日に予定され、この場で「長良小学校プール廃止」報告を予定していたからと。

6月23日は岐阜市議会6月議会の各常任委員会開会中で、「討論・採決」予定日。明るる24日は各常任委員会で委員長報告確認日、25日は本会議討論・採決日。23日は、議会は開会中で十分説明機会は存在したが、教育長は機会を活かさなかった。が、7月1日の教育委員への説明は実施されてと思われる。

市民協働の 実施設計費 308万余円 は 紙くずに

当初の合築設計の長良公民館実施設計費308万9千円は、無駄使い。紙くずとなり、更にプールを外した新実施設計費が公民館部分だけで1,201万7千円必要に。紙くずとなった当初分308万余円と新実施予算の合計は、**1,510万6千円**。

教育長の無計画が、市民協働推進部の予算を浪費に。ほか、長良小学校プール・公民館当初実施設計費は896万円。であり、プールは896万円（プール＋公民館）－308万円（公民館）＝588万円（プール）。プール当初設計費約600万円が、紙くずとなり、なお小学校集会室の設計費が新たに約300万円必要となる。

連絡先 岐阜市議会議員 松原のりかず 岐阜市沖ノ橋町1-21 でんわ 253-2500

プール利用期間は50年前から2ヶ月だ！

維持費 50年で2億7千万円 意味ある数字？

全体精読では配付されなかった説明 A3資料に、プールの利用期間が2ヶ月と短いことが「廃止」の理由に上げられている。が、プールの利用期間は、50年前から2ヶ月である。維持費2億7千万円の計算が記載されている。が、これは50年間の維持費との説明。

思い出して！ 高島屋南ビルのプール企画 維持費 **年間2億円！**

早川教育長が「教育立市」を共に進められた細江前市長が、企画された高島屋南ビル内のプール。「柳ヶ瀬に駐車代はらってプールに泳ぎに来る市民がどれほどいるか？」の議論から始まって、「2フロアー購入かリースか」投資効果の議論の中で「実はプールは歩くプールで・・・」「え・・・?!」となり、服部議員が素朴質問「維持費はどれほど？」と質問。回答「年間2億円です」。に、議会の雰囲気が一気に変わった。

「歩くプールに維持費が、年2億円。10年で20億円出すのか？」と、自民党も含めて反対し、プール企画は廃案になった。廃案になり、記憶にあるのは、健康部のある職員が「廃止になって良かった。あの企画は失敗すると思った」と呟っていた事。

当時、「そんな金があるなら、学校プールのために下さい」との話しは無かった。小学校プールの維持費を50年合計計算し「廃止宣伝」するのは「為にする」論議で、適切ではない。まして、「利用期間2ヶ月」に、いまようやく気が付いたのだろうか・・・？

本庁舎もメディアコスモスも 不調からスタート いま建っている

入札不調が工事中止の理由になるのは不思議。建設の是非は別にして、みんなの森メディアコスモスは不調を乗り越えて建設され、雨漏りしながらも活用されている。本庁舎は幾多の試練を乗り越えて全容を現し始めた。当初予算通過した工事企画が、1回の入札不調で廃止企画とされ続けられたら、議会審議そのものが無意味な議論となる。まして、小学校プール廃止という子ども達の夢を断ち切るような判断は、予算編成の中で許されるのか。

メディコスは平成25年2月の不調後に再積算し、約3億円増額。家具等の除外を行ない、工事から減額。総予算は実質増額され再入札。25年5月に落札。6月契約。本庁舎は入札不調時、175億円余を15億3800万円余増額し、入札にこぎつけている。9月11日の本会議で、早川教育長は「入札不調の金額差額は、知らない。」と答弁された。あまりに無責任。それとも、正直？ 「小学校プール廃止」結論出す前に、「住民への廃止結論の根回し」前に、もっとやる事があるのでは。

